

令和六年度徳島文理高等学校入学試験問題

第一限 国語 (その一)

注意

解答欄は問題用紙の(その九)(その十)(その十一)にあります。

解答に字数制限のある場合、句読点なども文字数に数えます。

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

グローバル化が世界を席卷し、世界共通のビジネスモデルや教育モデルが示される一方で、文化の衝突は思わぬ場所
で起きている。その衝突は深刻な結果を引き起こしているが、その実態や原因は目に見えないことが多い。顕著な一例
は、小論文や作文の型に現れる思考の型の違いである。例えばアメリカに留学した多くの学生は、英語能力の査定試験
で高等教育を受けるに足る語学力を習得していることが証明されても、論述試験で非常に低い評価を受けたり、時には
「理解不可能」、「評点不可能」として突き返されたりすることが実際に起きている。ところが、当該社会で教えられて
いる小論文の型を知り、それに沿って書くことで、評価は「理解不可能」から「A評価」へと三段跳びに上がるのであ
る。これは各国の「書く型」の違いが「論理の型」の違い、ひいては「思考の型」の違いを生むために起こる文化的な
衝突を示している。しかし「論理的であること」が多くの小論文の指南書が指摘するように単に証拠を示したり、a帰
納や演繹、因果律を使って説明することだと受けとめると、この衝突はその原因が全く見えないまま、能力の高低の間
題にすり替えられてしまう。小論文の型に現れる「スタイル(様式)の違い」が、「論理的な思考」という近代社会で
価値ある思考法を通して、学力や能力に転換されるのである。

では、書く型にはスタイルの違いがあるといっても、実際どのようなように、そしてどの程度違うのだろうか。以下は同じ
四コマの絵を日本とアメリカの小学生に見せて、説明してもらった実例である。実験の参加者は日米それぞれ小学校最
終学年の四学級の児童、日本一四四名(小学校六年生)とアメリカ八二名(小学校五年生)である。両国の大学生に同
じ課題で作文してもらおうと、小学生とほぼ同じ結果が持続して現れている。

(絵の主人公の名前は日本ではけんた、アメリカではジョン)

【日本】けんた君はねないでテレビゲームをしていてそしたらしあいかんまえになってしまっAていそいでユニホーム
にきがえてバスにのったところまちがえてそしてしあいかんにまにあわなくてせんばつでピッチャーができませんで
した。

【アメリカ】私のジョンの一日に対する意見は、一日の初めから終わりまで彼はイライラした一日をすごしたというこ
とです。その日は彼にとつてとても皮肉な日でした。まず彼はビデオゲームを長くやりすぎたので、それが悪い出来事
の連() 反応を引き起こしたのです。彼は遅く起きたので精神的にパニック状態になり、実際それが間違ったバス
に乗る原因となり、それが野球の試合の練習におくれる原因になったのです。要するに、彼は悪い一日を過ごしました。

(原文略)

これらの実例が示すように、日本では出来事が起こった順番に時系列でものを述べる強い傾向があるのに対して、ア
メリカではやはりこの時系列型が一番多いのだが、三割強の児童は例のように「エッセイ」と呼ばれるアメリカ式の小
論文の型で書いた。エッセイでは、最初に結論となる主張を述べ、次に主張を擁護する事実を述べて、最後に最初の主
張を別の言葉で繰り返す。先の四コマの絵の実験では、最初に「こんな一日でした」という結論を述べることで、その
後に続く絵の出来事はその理由として、あるいは結論となる主張を支える証拠として述べられている。そして最後に主
張を繰り返して結論とするのもエッセイの構造的な特徴を反映している。エッセイでは「主張」と主張を支持する「事

令和六年度徳島文理高等学校入学試験問題

第一限 国語 (その二)

実」と主張の繰り返しという型を踏まえてはじめて「論理的である」と評価される。それに対して、日本の児童は出来事すべてを実況中継のように述べたり、主人公の内心を描写したり、最後に教訓を述べて全体を「教訓のお話」にするタイプが多く、「時系列による描写」と「物語」が自然で()に落ちる説明と捉えられている。これらの日米の違いは、説明や理由付けの方法といった書き方の「スタイルの違い」である。しかし授業で「なぜ」と質問することが多いアメリカの学校で、もし日本の児童が親の転勤などでアメリカの学校へ行き、時系列で最初から最後まで答えたときとすると、「因果関係を理解していない」、「分析ができていない」、果ては「質問すら理解できない」という評価を受けてしまうだろう。

これが単に「言語の違い」の問題でないことは、応用言語学者のロバート・カプランがその画期的な研究で証明している。カプランは、英語の習熟度が上がっても留学生のエッセイの習熟度が上がらないことに長い間疑問を持っていた。そこで、小論文に「必要な要素」とそれを「並べる順番(パラグラフの順番)」という二つの指標をもとに世界三〇カ国以上から来た留学生の論の展開方法を類型に分けてみせた。カプランが示したのは、言語(文法)の違いではなく、レトリック(配置/論文構造)のレベルでの論理展開の違いである。

カプランの分類によれば、英語は直線的な展開、ヘブライ語やアラブ語など西アジアを中心に使用されるセム語は類似する事柄を詩の対句のように並行させる展開、東洋は渦巻きのように遠回りしながら間接的に主題に近づく展開、フランス語に代表されるロマンス語は余談を交えて^d紆余曲折しながら進む展開と分析されている。論理的というと、英語圏の直線的な論理展開が自明で普遍的なものを受けとめられているが、カプランの類型においては、いくつかある型の一つにすぎないということが分かる。

カプランの貢献は、論理的であると感ずる根拠を三段論法に代表されるような形式論理ではなく、論文に必要な要素が読み手の期待する順番に並んでいることから生まれる感覚であることを示したことだ。逆に非論理的だと感ずる根拠は、読み手が期待する考えの筋道の順番が破られた時、すなわち読み手の文化圏のレトリック(論文構造)に反した時である。つまり、読み手と書き手の間の合意によって(論理的)であることが決められているのである。

作文や小論文の教育で行われているのは、「書く型」を通じて当該社会で使われている「思考の型」を教えることである。もちろん共通の型として世界で教えられている基本の型は存在する。例えば「物語」、「描写」、「説明」、「説得」は書き方の基本的なジャンルとして世界の多くの国で教えられている。しかし、学力や能力を測る媒介としての小論文は、西洋としてひとつに括られるアメリカとフランスを比較しても大きく異なるのである。また、アメリカやフランスは学校教育における小論文の役割が大きな国だが、論述によって学力や能力が測られない国では、小論文に現れる論理よりも、社会の中で「納得しやすい」作文の型が広く流通している場合もある。日本の「感想文」やイランの「エンシヤー」と呼ばれる作文の型はその一例である。これらの作文の型は古典文芸に範を仰いでいる。

こうした文化の違いが顕著に表れるのは、国語教育と歴史教育においてである。国語でどのような作文・小論文の型を習うかにより、作文教育と作文が伝える思考の型——考える方法、問いに答えを出す手続き——には国によって大きな違いが見られる。

(渡邊雅子『「論理的思考」の文化的基盤』による)

令和六年度徳島文理高等学校入学試験問題

第一限 国語 (その四)

注意

解答欄は問題用紙の(その九)(その十)(その十一)にあります。

解答に字数制限のある場合、句読点などの記号も文字数に入れません。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

一つ手前の駅から窓の外に目をゴらしていたが、海は結局ちらりとも見えなアかった。バブル景気の頃に建てられたマンションの群れが視界を塞いでしまったせいだ。

電車に乗り込んだときから、どうせそうだろうな、と覚悟はしていた。この町に住んでいたのはもう三十年以上も前のことで、板張りの床に塗ったワックスのせいでむせ返りそうだった電車も、いまはオールステンレスになった。あの頃は天井で首を振る扇風機の風がこつちに回ってくるのが待ち遠しくてしかたなかったのに、最近では、電車に乗るときには必ず『弱冷房車』とドアに書かれた車輦を選ぶようにしている。冷房の風に当たっていると、ときめん腰が痛くなってしまうのだ。

海なんて、見えるはずがない。強がっているのでもひねくれているのでもなく、三十年を超える月日の流れをスナオに受け容れるつもりだったし、それは簡単にできるだろうとも思っていた。

だが、電車が懐かしい町にさしかかり、やはり海は見えないんだと確かめると、むしろように寂しくなった。なにに対してかわからないクやしさも、あった。

腕時計を見た。ほんとうは必要のないしぐさだった。時間はたつぷりある。うんざりするぐらい余っている。先に繰り越すことのできない余りだ。夕方までなんとか時間をつぶさなければならぬ。陽が落ちて家に帰ると、妻や子どもになにくわぬ顔で「ただいま」を言わなければならぬ。自信はない。電車に乗る前、駅のトイレの鏡に映した顔は、見るからに呆然としていた。鏡の前で無理に頬をゆるめると、いまにも泣きだしそうな顔になってしまった。

それでも——妻はともかく、小学生の子どもたちには、いまはまだ気取られるわけにはいかない。こっちがもつと落ち着いて、理不尽な運命にきちんと向き合う覚悟を定め、話の組み立てや口にする言葉を吟味してから、すべてを打ち明けるつもりだった。

駅に近づいて、電車はスピードを落とした。車内アナウンスが懐かしい町の名前を告げる。こうざい。港西。名前どおり港の西側にひらけた町——いまは、たしか「市」に昇格したはずだ。

ドアに向かって歩きます。吊革から手を離すと、電車のユレに体を支えきれずによるめいて、転びそうになった。ドアの横の手すりにつかまり、肩で息を継いだ。しっかりしろよ、と自分を叱り、そして、笑った。

電車を降りる。ホームに立つと、午後の陽光の照り返しに、頭がくらくらした。へたり込むように、ホームのベンチに腰を下ろす。体というのはこんなにも素直で単純なのか、と自分でも少しあきれた。昨日までならそんなことはなかった。明日からは、医者言葉に導かれるように、三カ月——九十日分の日割り計算をするペースで体が弱っていくのだろうか。

蟬の聲が一筋、すぐ近くで聞こえた。ホームの柱にニイニイゼミが留まっていた。夏の終わりの蟬だ。この蟬も、おそらくあと数えるほどしか命は残されていないだろう。

蟬は七年間を土の中で過ごし、成虫になって地上に出ると、ほんの半月ほどで死ぬ——子どもの頃に本で読んだ話が、

令和六年度徳島文理高等学校入学試験問題

第一限 国語 (その五)

いま、あらためて頭上に重くのしかかってくる。土の中で生きている時期を「幼虫」と呼ぶからいけないんじゃないか、蟬はそもそも土の中の生き物であって、地上に出てきてからの姿は、「成虫」ではなく、「死装束」だと思わなければならないのか、だとすればわずか半月の命を悲しむことはない、蟬はすでに土の中で十分に生きたのだ、地上に出て、羽が生えたあとは、「晩年」にすぎないのだ……。

④ 巡らせた思いを、屁理屈だよな、と苦笑交じりに切り捨てた。

立ち上がる。鈍痛のする腰に手をあてる。腰の痛みは冷房のせいではなかった。ときどき襲ってくる吐き気や食欲不振も、夏バテなどではなかった。それを知ったときには、もう、すべてが手遅れになっていた。

*2 跨線橋の階段を、手すりにつかまって、ゆっくりと上る。そういえば梅雨に入った頃から、すぐに息切れがするようになっていた。年のせいだと笑っていた。四十二歳なんてもうおじさんなんだもんなあ、とスポーツクラブに入会することも考えていた。いま振り返ると、のんきだった自分が情けなく、腹立たしく、そしてなによりせつなくて、いじらしい。

階段を上りきると一息ついて、ネクタイをはずし、背広を脱いで肘に掛けた。午後から年休を取る、と会社に連絡を入れたきり、携帯電話の電源は切つてある。仕事の引き継ぎ、休職中の事務手続き、生命保険の確認……しておかなければならないことはいくらでもあり、残された時間はあまりにも少なかったが、今日はなにも考えたくなかった。

初乗り運賃の切符をセイサンして、改札を抜けた。海側の出口から外に出た。再開発された町は山側に広がったので、こつちにはまだわずかに昔の面影が残っている。十分ほど歩けば、懐かしい海岸に出るはずだ。

今日からだな。

⑥ つぶやいて、さつきまでより少しだけ胸を張って、海へ向かって歩きます。

今日から「晩年」が始まる。

俊治は、今日、余命三カ月の宣告を受けた。

(重松清『潮騒』)

(注)

*1 バブル景気……日本において一九八〇年代後半から一九九〇年代初頭にかけて続いた好景気。

*2 跨線橋……鉄道線路の上をまたぐような形で架けた橋。

*3 年休……年度ごとに定められた有給休暇。「年次有給休暇」を略した言葉。

問一 波線部 a～e のカタカナの部分を書きで丁寧に記しなさい。

a コ(らして) b スナオ c クヤ(しき) d ユ(れ) e セイサン

問二 傍線部①「どうせそうだろうな、と覚悟はしていた」とあるが、「覚悟」していた内容として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 電車の中の様子が以前とはすっかり変わっていること。

イ 三十年を越える月日の流れを素直に受け容れること。

ウ 町に近づいても電車からは海は見えないこと。

エ 言葉を吟味してからすべてを打ち明けること。

オ 電車に乗り冷房の風にあたると腰が痛くなること。

受験番号

令和六年度徳島文理高等学校入学試験問題

第一限 国語 (その六)

問三 傍線部②「先に繰り越すことのできない余りだ」とあるが、ここではどういうことを言っているのか。その説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 夕方までにしなくてはならないことがあり、それは先延ばしにできないということ。
- イ 予定より早い電車に乗ったため、約束を果たすには時間が余り過ぎていること。
- ウ 自分の判断で家族に話すまでの余裕が欲しいのだが、今は時間つぶしが必要だということ。
- エ 自分に残された時間はわずかであるにもかかわらず、今は時間が余っているということ。
- オ 体調を整えるには多くの時間が必要であるので、繰り越す時間の余裕などないということ。

問四 傍線部③「羽が生えたあとは、『晩年』にすぎないのだ……。」とあるが、ここではどういうことを言っているのか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 蟬は土の中と地上に出るからとでは、その形態が大きく異なるということ。
- イ 土の中の生き物である蟬にとっては、地上の季節の移り変わりなど関係ないということ。
- ウ 蟬は土の中で七年間も過ごしており、蟬としての生を十分に生きたと考えること。
- エ 蟬の一生はほとんど土の中であり、土の中でないと生きられないと考えること。
- オ 土の中でも地上でも蟬の姿は「死装束」であり、生きているとは言えないということ。

問五 傍線部④「巡らせた思い」とあるが、主人公がこのように思いを巡らせたのはなぜですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 蟬の寿命という全く関係のないことを考えることによって、余命宣告を受けた事実を忘れてしまいたいと思っていたから。
- イ 子供の頃に本で読み何も感じなかった蟬の話が、死の迫った今の自分にとっては考えるべき尊い価値のある話だと確信したから。
- ウ どれほど悲しく残酷なことであっても必ず人間は死ぬのであるから、同じように蟬の成虫の命が短いことも仕方ないことと考えていたから。
- エ 自分には死が迫っていることを告げられたことで、蟬も含めた命あるもの全てをいとおしむ思いが改めて強くなったから。
- オ 蟬の成虫の命がわずか半月であることの意味づけをすることによって、自分の命が残り少ない状況であることも納得しようとしたから。

令和六年度徳島文理高等学校入学試験問題

第一限 国語 (その七)

問六 傍線部⑤「のんきだった自分が情けなく、腹立たしく、そしてなによりせつなくて、いじらしい」とあるが、ここで「自分」の心情として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 無理に励まして気持ちを奮い立たせていた自分が何となく恥ずかしく、なによりむなしく感じている。
- イ 身体の状態に気付かぬままいた自分に対しくやしく、なによりつらくやるせなくけなげに感じている。
- ウ 思うように体が動かないことがもどかしいが、なにより努力する自分をほめたいと感じている。
- エ 残された時間があまりない今の自分に対する怒りがあり、生命力のあるものにねたみを感じている。
- オ 子どもの頃にいた町に来てその変化に対し戸惑うが、それ以上に懐かしさを強く感じている。

問七 傍線部⑥「さつきまでより少しだけ胸を張って」とあるが、この時の主人公(「自分」)の心情を三十字以内で書きなさい。

問八 二重傍線部「海は結局ちらりとも見えなかつた。」と品詞が同じものを、次のア～オの中から一つ選びなさい。

- ア この部屋には、何もない。
- イ 今日中に課題を仕上げなければならない。
- ウ この問題は、それほど難しくはないよ。
- エ この地図は、あまり正確でない。
- オ カゲロウの一生ははかない。

三 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

昔、延喜の御門の御時、五条の天神あたりに、大なる柿の木の実ならぬありけり。その木の上に仏現れておはします。京中の人こぞりて参りけり。馬、車も立てあへず、人もせきあへず、拝みののしりけり。

かくする程に、五六日あるに、右大臣殿心得ず思し給ひける間、誠の仏の、世の末に出で給ふべきにあらず。我行きて試みんと思して、日の装束うるはしくして、檳榔の車に乗りて、御前多く具して、集りつどひたる者ども退けさせ^⑤て、車かけはずして、しちを立てて、梢を目もたたかず、あからめもせずしてまもりて、一時ばかりおはするに、この^④仏暫しこそ花も降らせ、光をも放ちけれ、あまりにあまりにまもられて、しわびて、大きな糞鳶の羽折れたる、土に落ちて惑ひふためくを、童部ども寄りて打ち殺してけり。大臣はさればこそとて、帰り給ひぬ。

さて、時の人この大臣を、いみじきかしこき人にておはしますとぞののしりける。

(注)

- *1 立てあへず…: 停めるすきもなく
- *2 せきあへず…: せきとめられず
- *3 ののしりけり…: 大騒ぎした
- *4 檳榔の車…: 貴族の乗る牛車
- *5 車かけはずして…: 牛車から牛をはずして
- *6 しちを立てて…: 牛車の棒を台に乗せて

受験番号

令和六年度徳島文理高等学校入学試験問題

第一限 国語 (その八)

問一 傍線部①「右大臣殿心得ず思し給ひける」とあるが、右大臣殿はなぜ「心得ず」(不審に)思ったのか。説明しなさい。

問二 傍線部②「日の装束うるはしくして」とは、どのような「装束」(服装)ですか。次から一つ選び記号で答えなさい。

- ア 日常的で動きやすい身軽な服装。
- イ 朝廷に出仕する時の正式な服装。
- ウ 獣相手にでも戦える狩りの服装。
- エ 庶民に紛れ込める質素な服装。
- オ 仏と対面するための僧の服装。

問三 傍線部③「あからめもせず」の現代語訳を次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 目を見開いて
- イ まばたきもしないで
- ウ あきらめもしないで
- エ よそ見もしないで
- オ 目が充血するのまかまわないで

問四 傍線部④「この仏」の正体は何だったのか。文中から十二文字で抜き出して答えなさい。

問五 傍線部⑤「さればこそ」とあるが、大臣はどう思ったのか。次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 仏の思いがけない正体にひどく驚いた。
- イ 何も殺すことはないのにと哀れに思った。
- ウ やはり思った通りだったと納得していた。
- エ この世に仏などいないのだと絶望した。
- オ 迷信を信じる庶民を教育しようと決意した。

問六 傍線部⑥「時の人この大臣を」とあるが、当時の人々はこの大臣のことをどう評価したのか。次から一つ選び記号で答えなさい。

- ア せっかく庶民が信じていたのに正体を暴く必要はないと反発した。
- イ 妖怪の正体を暴き、自らの手で退治した勇敢な人だと褒め称えた。
- ウ 騒動を最後まで見届けなくて立ち去った無責任な人だと軽蔑した。
- エ あまりにも気高すぎてとてもお側に近づけない人だと敬遠した。
- オ 誰よりも早く真実を見抜いた非常に賢明な人だと噂しあった。

問七 この話は、鎌倉時代の説話集に収録されている。何という説話集か。次から一つ選び記号で答えなさい。

- ア 竹取物語
- イ 源氏物語
- ウ 宇治拾遺物語
- エ 平家物語
- オ 奥の細道